



テーマ

岐阜駅西地区開発事業



▲グループホームもやいの家・藤代誕生日会(共生事業)

「未来志向研究プロジェクト」 に寄せる思い

岐阜大学教育学部 教授

小林月子

人間の優れた特徴のひとつは、一生涯ずっと成長し続けることができるということにある。そのことは、ある人が人生のある時点で障害をもったとしても変わらない。「障害があっても自分らしく生きたい」というのは、きわめて人間らしい願望である。またこの願望を実現できるように、あらゆるところで積極的な努力を重ねる社会は人間的な(ヒューマンな)社会と言えよう。「豊かな社会」とは、この願望を実現することに第一級の価値をおく社会のことではあるまいか。反対に、こうした人間の根源的な願望を、障害ゆえに否定する社会は、どんなに物質的に豊かでも、きわめて「貧しい社会」であろう。「未来志向研究プロジェクト」は、日本社会が、「貧しい社会」から「豊かな社会」へ離陸するための滑走路の様なものである。「障害があっても誰もが自分らしく暮らしていける地域」を、皆が知恵を絞ってつくり出したい。だから、このプロジェクトには、福祉・介護の現場の専門職や行政だけでなく、そうした地域社会に豊かな社会を希求する人なら誰でも参加・研究できる。その意味でも、このプロジェクトは「未来志向」なのである。

新年のご挨拶

社会福祉法人 新生会 理事長 石原美智子

新年あけまして

おめでとうございます。

みなさまには、お健やかな年の初めをお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

池田山麓のサンビレッジ宮路・こだま展望台から拝むご来光は、私たちに今年も幸せを届けて下さることでしょう。

昨年は日本中、暑い夏、大



社会福祉法人 新生会 理事長 石原美智子

きな沢山の台風、熊の出没、新潟中越地震など試練の多い年でした。でも、私たち総合ケアセンター・サンビレッジとしては専門性の高い介護を目指し、全国の研修会等での幾つかの発表も大きな評価を頂き、今後の取り組みに力強い励みになりました。

総合ケアセンター・サンビレ

ッジの組織も大きくなり新しいスタッフも増え成長してきた今年は、大きく模様替えをし、名前の通り新しく生まれ変わった組織作りを考えています。

高齢社会のとりにあえずの目標は、団塊世代の人生の終末までを尊厳ある支えが出来るようにすることです。自分だけのことではなく、社会全体が豊かに成熟し、次世代に質の高い社会を引き継ぐことが出来るように、私たちはこの仕事を通して努力していかうとしています。

どうぞ、今後とも皆様方のご支援、ご鞭撻を頂けますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



▲岐阜駅前ビル完成予想図

- 43F
} マンション(約240戸)
- 15F
- 14F
}
- 5F 高齢者向け賃貸住宅(約100戸)
- 4F 商業施設(岐阜放送)
- 3F 医療福祉ゾーン
- 1・2F 商業施設

介護保険の見直し

2000年度に始まった介護保険制度が、当初の予定通り5年目の大きな見直しのために動き出しています。

1976年に社会福祉法人「新生会」がこの世に生まれ、特別養護老人ホーム・サンビレッジ新生苑が創設された時は、措置費の時代でした。そ



▲ふれあいの家(授産所)の方と一緒に木工をするデイサービス利用者

の中で地域に開かれた施設の運営、自由契約による特養ホームの取り組み、専門性を高めるための学校創設、有料老人ホームなど時代と共に多くの取り組みをしてきました。これからの時代に向けて私たちはサテライト型小規模多機能施設を地域の住民や社会資源を取り入れた形で取り組む計画をしています。施設は特別の人だけのための

ものではなく、そこに暮らす多くの人々と共にあり、誰もが出入りの出来るものでありたいと願っています。それが高齢社会の姿だからです。

2007年春には、岐阜駅前前の43階建てビル内3階フロアに24時間、365日型の医療福祉ゾーンが開設されます。今後の社会のあるべき姿の一つとして、尊厳ある人生の姿がどうあるべきかを示すことが出来る「夢」の集大成です。これは岐阜県が提唱する「ふるさと福祉村」の姿ともオーバーラップし、NPO法人「校舎のない学校」の一つの教室でもあります。岐阜駅前には岐阜県の顔です。そこでの実践は大きな影響を与えます。大きな夢を、真摯に実践していきたいと願っています。

もやいの家(泉)完成

グループホームもやいの家(泉) チーフ 田中広美

厚生労働省「未来志向研究プロジェクト」にて共生事業を進めてきましたグループホームもやいの家(泉)がサンビレッジ東隣にもやいの家第二弾として新築、移転しました。

11月22日竣工式、内覧会を終え、ここもやいの家での新しい暮らしが始まっています。

自主事業として若年の障害者の方の宿泊機能を持つ居室を1床設け、年齢や障害に捉われない共生型グループホームとして今後の事業を展開していきます。

”地域の中での当たり前前の暮らし”をキャッチフレーズに様々な世代の方が、集い、憩い、安心して暮らせる場所として地域ニーズに即したサービ

ス作りに努めて参ります。皆様も是非お遊びにお越し下さい。



▲グループホーム もやいの家(泉)

「介護予防教室から

予防メニューの提案を」

池田町在宅介護支援センター ケアマネジャーチーフ 桜田りえ

在宅介護支援センターでは3年前より、町内の中高年の方を対象に「介護予防教室」を7地区の公民館で開催しています。

内容は①生活習慣病予防②転倒・骨折予防③やさしいアクティビティ④痴呆予防の4シリーズで講師はサングレッジの職員がそれぞれ担当して好評を得ています。前回の「転倒骨折予防教室」では作業療法士が転倒の原因やバランスの大切さ、対応策について講義する他に体力チェックを行ないました。握力・片足立ち・直線歩行・バランスなどのメニューをグループに分け実際に運動

して頂き、自己の体力を感じてもらいました。(参加人数は7地区で120名)

総合的に見ると大きな低下はありませんが中には握力の低下や直線歩行でふらつきがあり、思わず転倒した時のとつさのバランスが取れなく転んでしまいそうな方も見られました。18年度の介護保険制度の見直しでは介護予防に注目しており要介護状態にならないように色々なメニューが考案されています。

今回行なった筋力アップ体操やバランスボールを使った体操などがデイサービスで予防メニューとして取り

入れられるようになると思う。の方針である介護予防に繋がると思います。

今後は参加者の体力アップが評価できるようなメニューを提案していきますので皆様の参加をお待ちしております。「元気に長生き」が合言葉です。気軽にお越し下さい。



▲転倒骨折予防教室(宮地地区ふれあいセンター)

一緒に暮らして まアス!

現在、総合ケアセンターサングレッジには、8匹の小犬が利用者と共に過ごしています。犬との生活を通じて、利用者の間に心と心のふれあいが生まれています。

